

農林水産物の生産等概況

(新型コロナウイルス感染症の影響を含む)

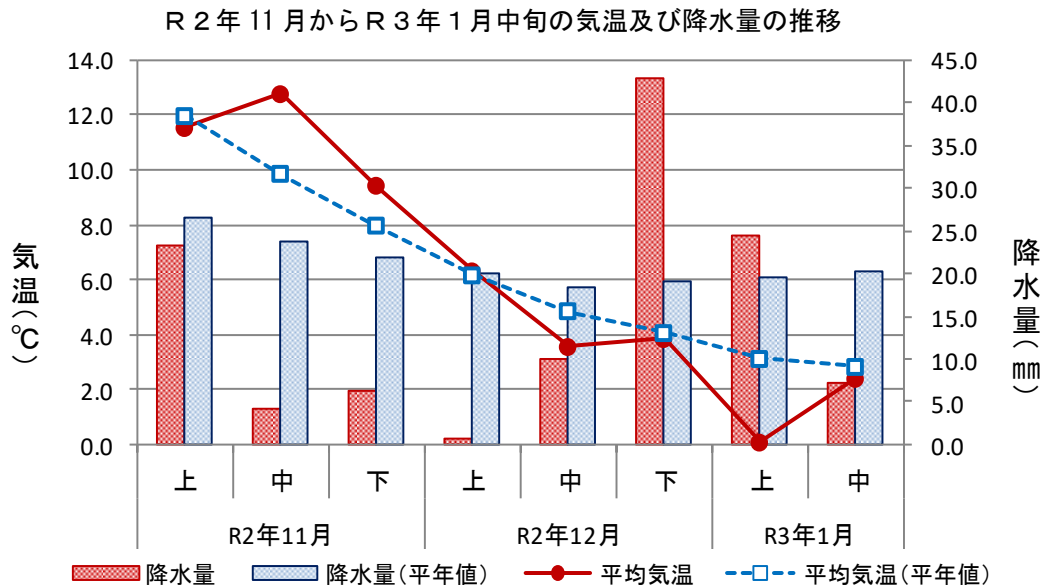
〔令和3年2月3日〕
農林水産総務課

I 気象概況

11月から12月上旬までは、天候に恵まれ、気温は平年より高く推移し、降水量は大幅に減少した。

12月中旬以降は、気温は平年より低く推移し、特に、1月上旬には平年より3℃以上低下した。

県北部を中心とした12月中旬からの降雪により、庄原市高野町の1月の最深積雪は137cmと平年の79cmを大きく上回った。



※県内17気象観測地点の平均(気象庁の観測データを参照)

令和2年12月・令和3年1月の降雪量合計及び最深積雪

月別		大朝 (cm)		高野 (cm)		八幡 (cm)	
			平年値		平年値		平年値
12月	降雪量合計	41	66	140	114	96	132
	最深積雪	19	26	57	49	39	60
1月	降雪量合計	180	118	172	211	188	202
	最深積雪	91	35	137	79	126	92

※令和3年1月は1月26日までの値

II 農産物

1 普通作物の生産状況

(1) 主食用米

令和2年産の主食用米の本県作付面積は22,000haで、前年産に比べ200ha減少した。

作柄については、全体のもみ数は平年並であったが、登熟（実入り）はトビイロウンカの被害発生や、梅雨明け以降、9月上旬までの高温の影響により粒の肥大・充実が抑制されたことから「不良」となり、作況指数は「94（北部96・南部90）」となった。

一方、全国での作柄については「平年並」で、作況指数は「99」となり、新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、全国の民間在庫量が増加していることなどから、今年産の米の取引価格は下落している。

(2) 酒造好適米（酒米）

酒米は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う日本酒の消費量の減少により、令和2年産については約6割程度しか販売先が確保されておらず、在庫が発生していることから、令和3年産の県産酒米の作付けは、今年産から約4割の削減が必要な状況となっている。

2 野菜の生産・販売状況

(1) 野菜全体

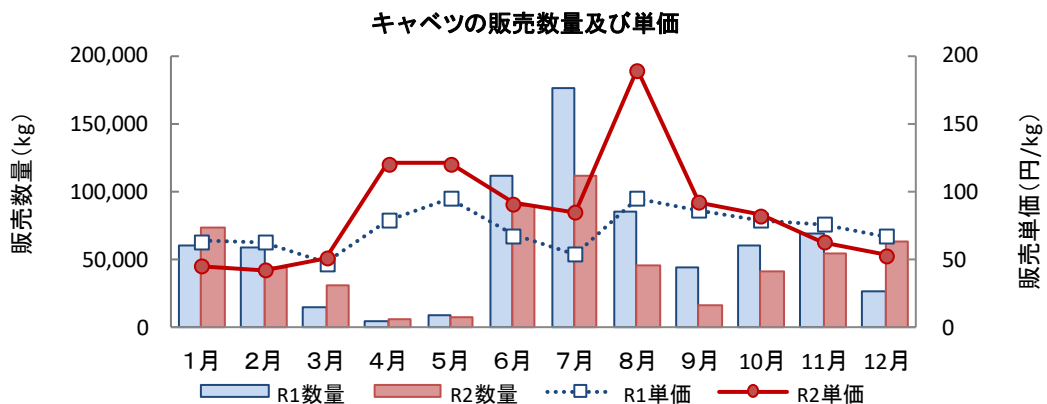
外食向けの販売は、11月までは一定程度回復していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る外出自粛の影響で、12月に入り大幅に減少している。

一方、家庭向け及び加工向けの販売は堅調だが、秋以降天候に恵まれ、全国的に野菜の生産量が増えたことにより、10月から12月の単価は低く推移した。12月中旬から気温が下がった影響で、1月に入り単価は上昇傾向にある。

(2) キャベツ

尾道市や呉市などで生産されたものが販売されている。

販売数量は前年に比べ11月は少なかったが、12月は多くなっており、単価は前年よりやや低く推移している。

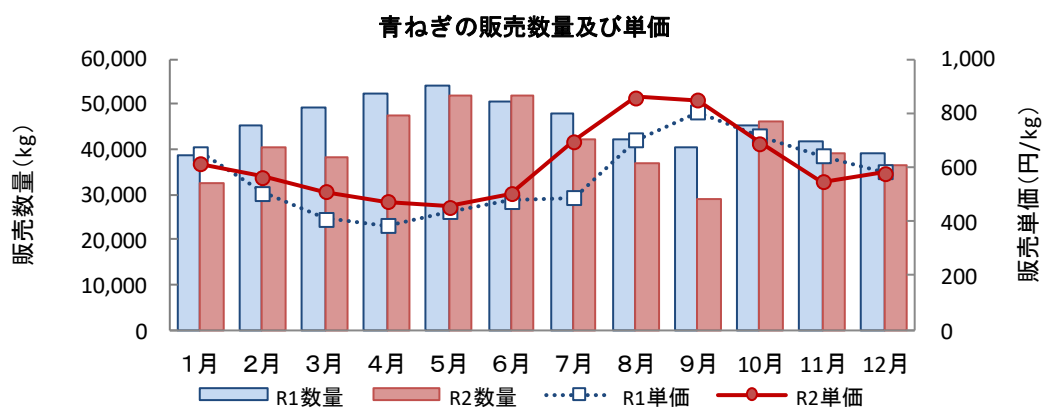


※広島市中央卸売市場（中央市場）の県内産

(3) 青ねぎ

安芸高田市を中心に生産されたものが販売されている。

11月、12月の販売数量は前年よりやや少なく、単価は前年よりもやや低く推移している。

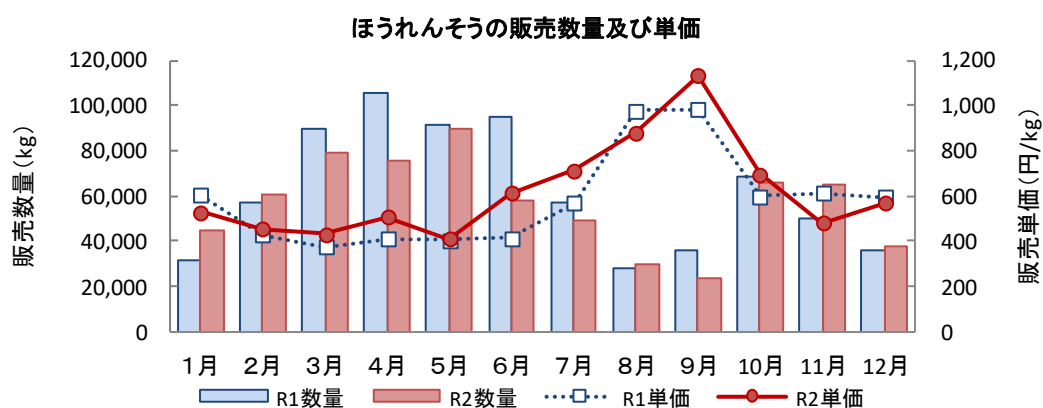


※広島市中央卸売市場（中央市場）の県内産

(4) ほうれんそう

庄原市や広島市などで生産されたものが販売されている。

11月、12月の販売数量は前年よりも多く、単価は前年よりもやや低く推移している。



※広島市中央卸売市場（中央市場）の県内産

3 果樹の生産・販売状況

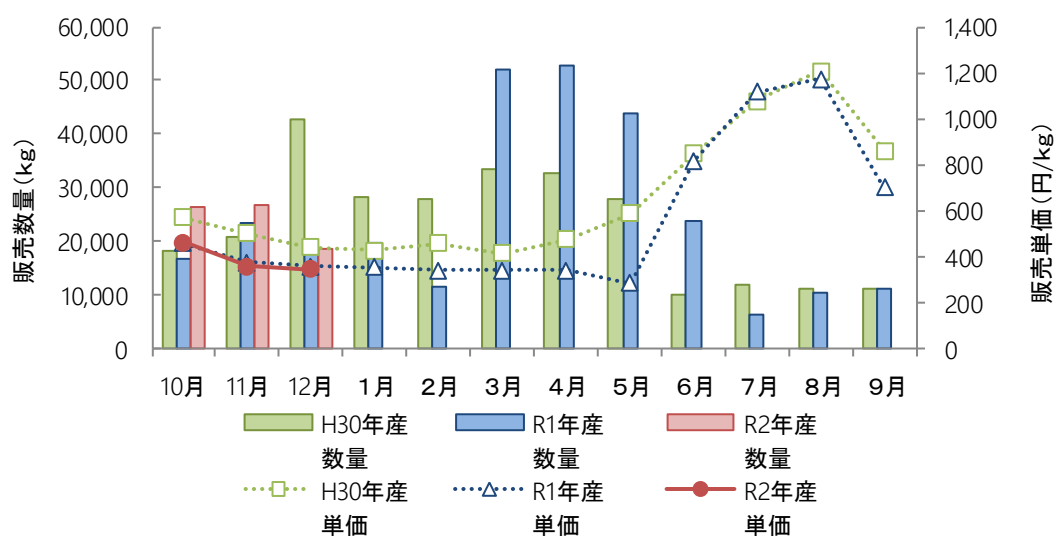
(1) レモン

今年産については、着果数が昨年より少ない状況にあるが、10月から12月までの広島市中央卸売市場への出荷量は果実肥大が良く前進出荷となったため、昨年並みとなっている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、業務用需要は減少しているが、県産レモンについては家庭消費が中心であるため、影響は少ない。

1月上旬の寒波により、被害が生じる-3℃を下回った一部の園では、果実の凍害などが発生している。

レモンの販売数量及び単価



※広島市中央卸売市場（中央市場）の県内産

(2) レモン以外の中晩柑類

12月からネーブルオレンジ，1月中旬からはっさくが出荷されている。近年の単価と比較するとやや安値ではあるが高単価を維持している。

2年産の中晩柑類の生産量は，前年より少なくなる見込みである。

令和2年産 県内産の中晩柑類の生産量(見込み)

区 分	生産量 (t)			対比 (%)	
	R2年産(見込)	R元年産	H30年産	R元年産比	H30年産比
レモン	5,638	6,465	3,569	87	158
ネーブルオレンジ	1,875	1,907	1,834	98	102
はっさく	4,876	5,275	4,551	92	107
しらぬひ	3,505	3,449	3,232	102	108
その他	892	910	820	98	109

(注) 広島県果実農業協同組合連合会調べ

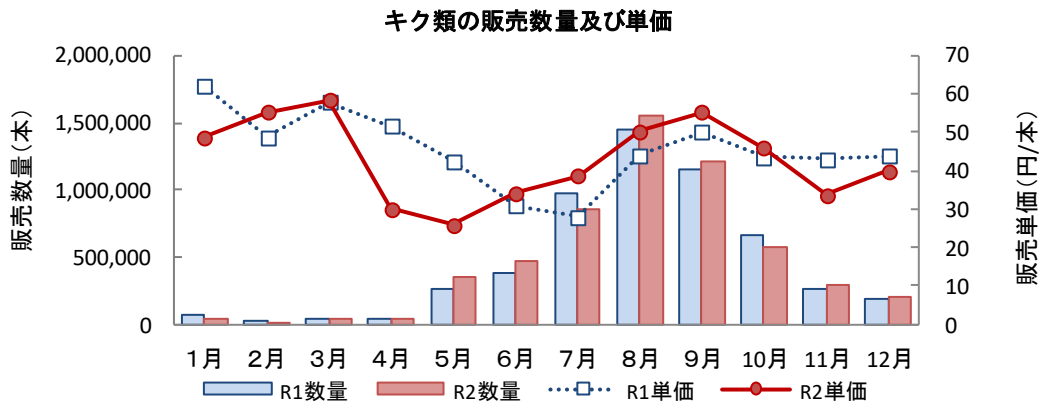
(3) りんご

庄原市高野町においては，1月上旬の130cmを超える積雪により，一部の園で枝折れ等の被害が発生している。

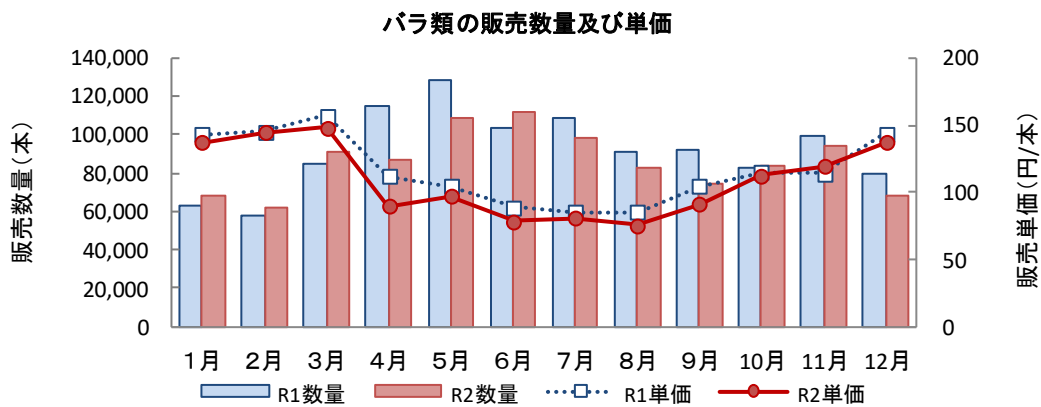
4 花きの生産・販売状況

11月、12月は多くの品目で単価は前年並みとなったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る外出自粛がはじまった12月以降は、年末年始のイベントや成人式などが中止されたことにより、需要が減少している。

そのため、生産者は、外出自粛終了後の需要の回復を見込み、出荷時期を遅らせることと経費節減することを目的に暖房の設定温度を低くしている。



※広島市中央卸売市場（中央市場）の県内産

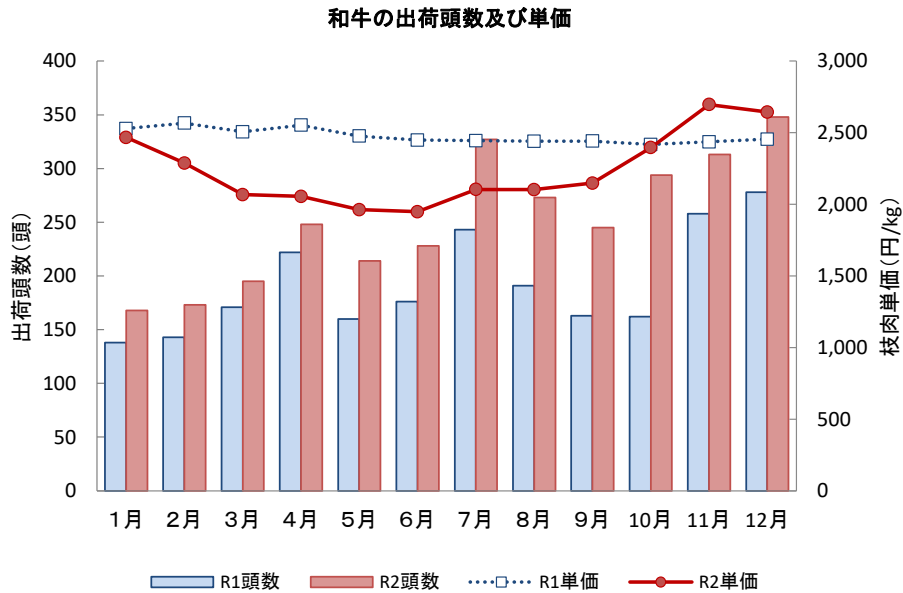


※広島市中央卸売市場（中央市場）の県内産

Ⅲ 畜産物

1 和牛

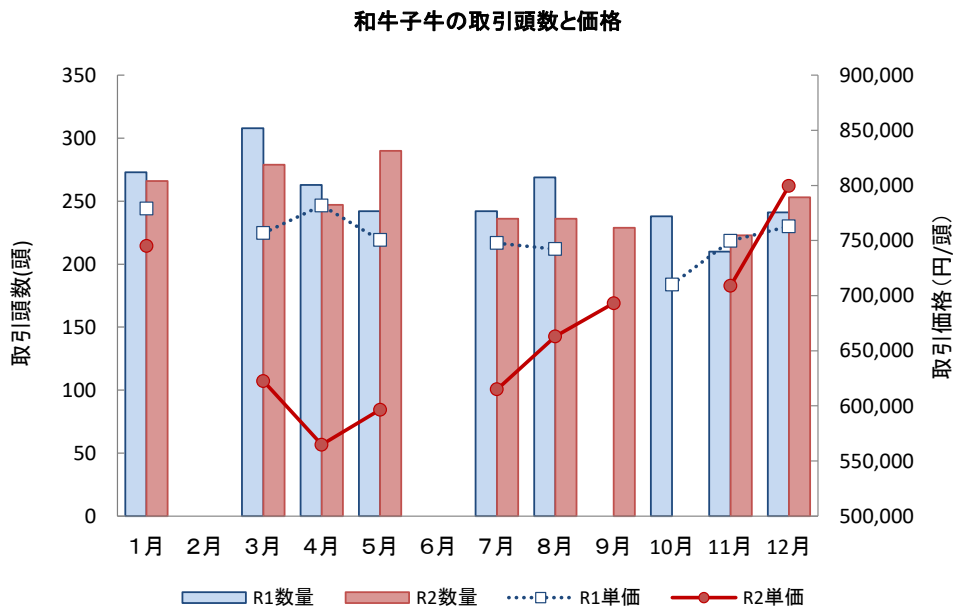
和牛の出荷頭数は、前年よりも2～3割以上増加して推移している上、新型コロナウイルス感染症の影響による外食向けの需要減少により、10月までの枝肉価格は前年を下回っていたが、家庭消費が好調であることや学校給食への提供により11月以降、前年を上回っている。



※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A4で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

2 和牛子牛

子牛取引価格は、昨年1月以降、前年同月を下回って推移し、4月にはその差が最大となり、対前年同月比▲15万円（▲28%）となったものの、徐々に回復基調となり、12月には前年を上回っている。



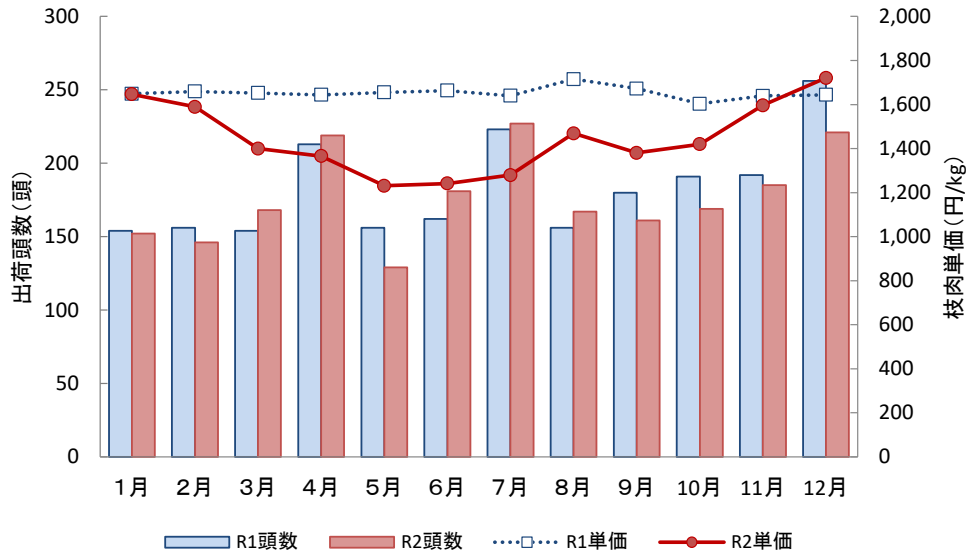
※ 「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

3 交雑牛

出荷頭数は、前年と大きな変動はないが、外食向けの需要が減り、量販店向けへの転換など物流の変化が生じた。

枝肉単価は、量販店での需要が堅調であるため、10月以降回復基調となり、12月には前年を上回っている。

交雑牛の出荷頭数及び単価

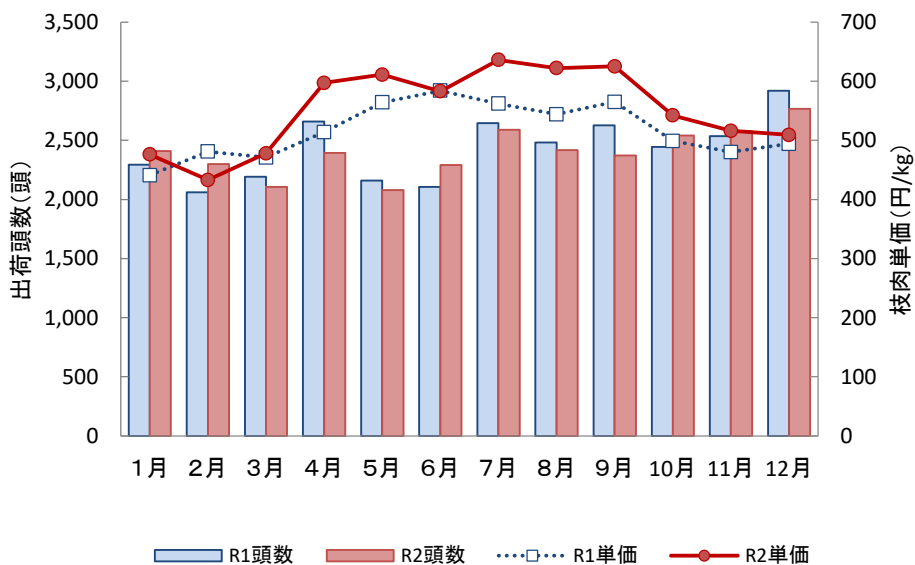


※ 「食肉流通統計」(農林水産省)。直近月は、「食肉市況速報」((公社)日本食肉市場卸売協会)から引用。
 出荷頭数は全ての交雑牛(成牛)、枝肉単価は交雑牛去勢B3で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

4 豚

量販店での需要が堅調であるため、枝肉単価は前年より上回って推移している。

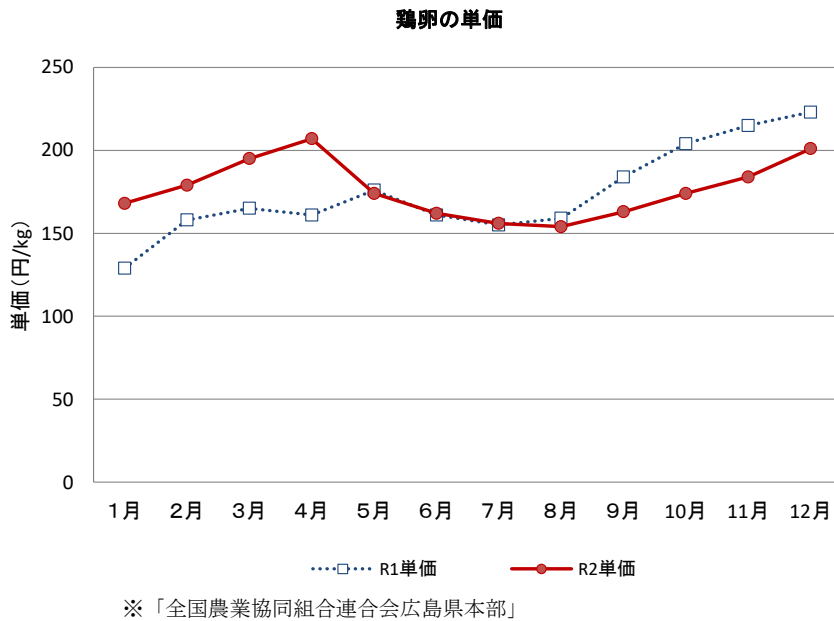
肥育豚の出荷頭数及び単価



※ 「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産

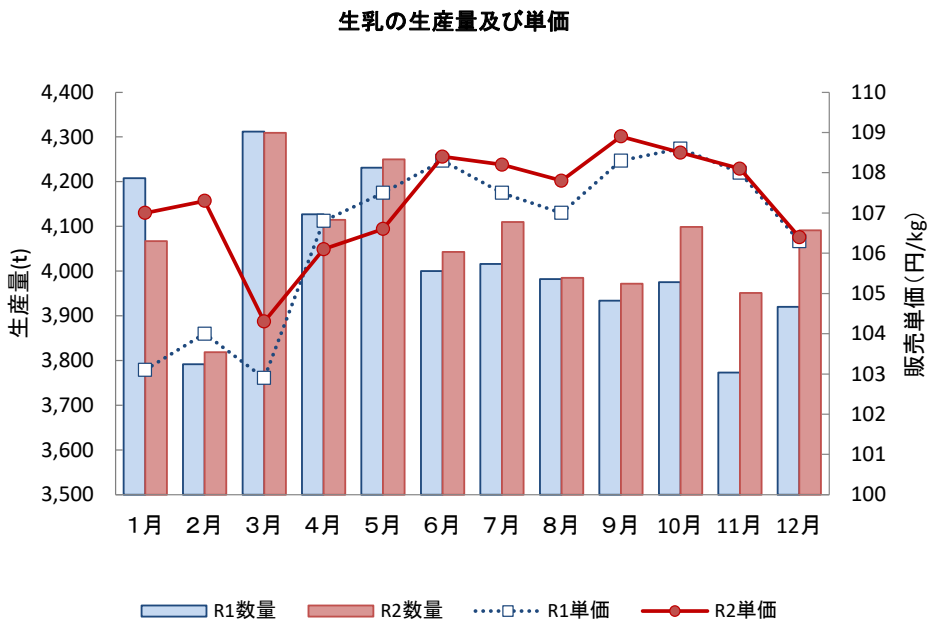
5 鶏卵

外食需要の減少が続いているため、9月以降の取引単価は前年を下回って推移している。



6 酪農

3月は給食の中止に伴い、学校給食用牛乳からバター等加工向けに一部転換され、乳価が前月比で3%低下した。4月から5月は学校給食が再度休止されたが、その後、学校給食が再開されたため、乳価は前年並みで推移している。



IV 林産物

1 木材価格

景気の先行き不安や営業活動の制約などから住宅着工の遅れが生じ、これにより、一部の工場で減産が行われたことから、例年と比較して木材単価は低下していたが、8月以降では例年並みに回復している。

(単位：円/m³)

年	樹種	素材価格			製品価格	
		スギ 中丸太	ヒノキ 中丸太	米マツ 丸太	スギ 正角	ヒノキ 正角
平成29年		12,542	14,292	26,101	55,667	63,500
平成30年		12,750	16,208	30,210	56,000	65,000
令和元年		13,000	16,917	28,523	56,000	65,000
令和元年12月		13,000	16,000	27,360	56,000	65,000
令和2年11月		13,000	15,000	27,360	56,000	65,000
令和2年12月		13,500	15,500	28,440	56,000	65,000

(注) 素材価格及び製品価格は日刊木材新聞「広島標準相場」

素材価格：国産材は市売値，外材は問屋における店頭渡し価格

製品価格：小売業者への店頭渡し価格

平成29年～令和元年は年間平均価格

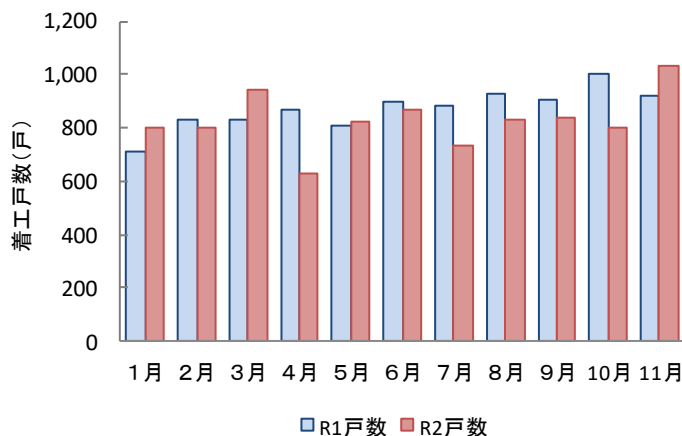
2 木材取扱量

県内の木材市場のうち、最も取扱量が多い広島県森林組合連合会三次木材共販所における木材の取扱量については、夏以降は回復傾向にあり、10月から前年を上回っている。

広島県森林組合連合会三次木材共販所における取扱量 (単位：m³)

年	樹種	木材取扱量	内訳	
			スギ	ヒノキ
令和元年10月		5,086	2,144	2,942
令和元年11月		5,182	2,819	2,363
令和元年12月		4,527	1,750	2,777
令和2年10月		6,932	3,532	3,400
令和2年11月		5,895	2,290	3,605
令和2年12月		4,911	1,770	3,141

県内の木造住宅着工戸数(参考)



V 水産物

1 水温

1月上旬の県内海域の表層の水温は10.6～14.6℃で、平年差は-1.1～+0.5℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
1月上旬の水温	11.8～13.5℃	14.3～14.6℃	10.6～13.4℃
平年差	-0.4～+0.4℃	+0.1～+0.5℃	-1.1～-0.2℃

2 漁獲状況

魚種全体では、天候不順が影響したことや、飲食店等の需要減少により価格が低下し漁業者が出漁を控えたため、市場の入荷量が平年を下回る傾向となった。

マダイは豊漁であり、入荷量が平年に比べ多かったため、単価が平年比で4割程度低くなった。

カワハギも豊漁であり、入荷量が平年に比べ多かったが、家庭での需要が堅調であったことから、単価は平年並みとなった。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況 (R2.12)

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円 /kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円 /kg	前年比 %	平年比 %
マ ア ジ	58.4	91	78	457	99	93	0.2	16	17	1,682	180	160
サ バ	56.3	90	57	347	107	95	0.3	38	22	1,025	74	61
ヒ ラ メ	8.3	77	66	1,959	96	105	0.9	108	63	2,009	87	106
シタビラメ	4.8	52	40	767	121	103	3.3	46	38	711	120	96
マ ダ イ	59.5	130	149	653	65	60	17.2	152	136	605	67	64
ク ロ ダ イ	4.6	86	74	359	83	87	4.3	86	80	369	83	85
メ バ ル	8.7	98	95	1,138	93	80	1.5	108	54	1,117	86	79
オ コ ゼ	0.7	68	42	1,793	96	95	0.3	53	28	1,691	100	97
ス ズ キ	14.3	91	67	444	85	80	9.4	74	71	361	88	79
カ ワ ハ ギ	22.3	97	45	877	96	133	7.6	129	145	1,328	85	100
サ ヨ リ	2.7	36	34	732	71	87	1.6	62	33	769	134	115
ア ナ ゴ	42.5	88	91	1,373	84	85	4.0	85	74	1,176	106	84
タ チ ウ オ	15.9	85	44	888	104	96	2.0	59	10	938	88	100
タ コ	18.4	112	61	1,427	79	104	2.7	51	29	1,530	85	107
ガ ザ ミ	1.6	54	31	4,329	124	152	0.4	26	22	2,877	97	133

平年値は平成22年～令和元年の平均

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ、ちりめん）については、12月末現在、平均単価は平年を下回っているが、共販数量が平年を大きく上回っており、金額は平年の143%となった。

広島県煮干共販出荷実績（12月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和2年度(平年比)	2,486 (170%)	1,429,490 (143%)	575 (84%)
平 年	1,459	996,337	683

平年値は平成22年～令和元年の平均（12月末累計）

3 養殖状況

(1) かき養殖

1月上旬の平均むき身重量は15.2gで、平年の105%となった。平均単価は、665円/kgで、平年の89%であった。

外食向けの出荷は、低迷しているが、家庭での消費が堅調であり、量販店向けの出荷は、順調となっている。

(2) のり養殖

12月下旬から出荷が始まり、共販数量、平均単価ともに平年を下回り、共販金額は平年の63%となった。

広島県乾のり共販出荷実績（1月25日現在累計）

区 分	販売数量（千枚）	販売金額（千円）	平均単価（円/枚）
令和2年度(平年比)	22,809（77%）	163,508（63%）	7.17（82%）
平 年 値	29,516	259,088	8.78

平年値は平成22年～令和元年の平均

VI 本県における新型コロナウイルス感染症の影響に対する対応状況

1 補助金・交付金

○ 影響

今後も単価の低迷や不安定な消費動向が見込まれ、次期作に向けた運転資金、投資資金の確保に不安がある。

○ 対応状況

ア) 経営継続補助金

全国農業会議所が事業主体、県内農林水産関係団体が窓口となり、感染拡大防止対策を行いつつ、販路回復・開拓や事業継続・転換のための設備導入や人手不足解消に取り組む生産者に対し、経営継続補助金の交付を行っている。

- ・一次採択経営体数 約 400 経営体、交付額約 4 億 7 千万円
- ・二次申請経営体数 約 550 経営体、申請額約 5 億円 (R2. 11)

イ) 高収益作物次期作支援交付金

広島県農業再生協議会が事業実施主体となり、野菜・果樹・花き等の高収益作物の次期作に前向きに取り組む生産者に対し、高収益作物次期作支援交付金の交付事務を進めている。

- ・申請経営体数 約 1,600 経営体
- ・申請金額 約 7 億 4 千万円 (R2. 12)

2 資金

○ 影響

今後も単価の低迷や不安定な状況が続くと見込まれる「かき」や「和牛」などの生産者は、資金繰り面での不安がある。

○ 対応状況

ア) 農畜産業については、肥育経営体に対するコロナ支援枠を創設した農業近代化資金や日本政策金融公庫のセーフティネット資金の活用などについて、市町、JAを通じて周知している。

- ・農業近代化資金（肥育経営体に対するコロナ支援） (R3. 1. 20 現在)
貸付決定 1 件 1,800 万円
検討中 3 件

イ) 水産業については、運転資金が必要なかき養殖業者に対して漁業災害特別対策資金により支援するとともに、日本政策金融公庫のセーフティネット資金等の活用について、市町、漁協を通じて周知している。

- ・漁業災害特別対策資金 11 件 約 6 千万円 (R2. 12 末現在)

ウ) 林業・木材産業については、林業者等に対して、セーフティネット資金等について、市町、広島県森林組合連合会、広島県木材組合連合会を通じて周知している。

3 労働力

○ 影響

新型コロナウイルス感染症の発生により、外国人技能実習生の新たな受入れが遅れている状況が続いており、今後も、この状況が長期化すれば、影響が懸念される。

○ 対応状況

ア) 他産業からの就業希望者に対し、独立を希望する方には実践型研修への誘導、雇用を希望する方には農業法人等とのマッチングにより新規就農を支援している。

イ) JAグループに対し、援農や就農に必要な研修を行うためのスマート農業機械等の整備について、農業労働力確保緊急支援事業を活用して支援している。

4 販売

○ 影響

食品を中心としたスーパーやインターネット販売などの売上は伸びている。

飲食店やホテルの消費については、G o T o トラベルなどにより回復傾向にあったものの12月からの営業時間短縮やG o T o トラベルなどの停止により再び低い状況となっている。

新型コロナウイルス感染症の影響による日本酒の消費減退により、醸造用に利用される見込みがない酒米在庫が発生している。

○ 対応状況

ア) 販売に苦慮している花きや牛肉、かきなど県内農畜水産物等について、ECサイト（ひろしまモール）等を活用した販路拡大支援を1か月（1月末まで）延長して実施した。

イ) 花きについては、業界団体による花の定額購入サービス（ロハスフラワー）の実施による新たなサプライチェーンの構築や、駅や公共施設への花の装飾等により、家庭やオフィスでの需要喚起を支援している。

ウ) 県産農林水産物の流通を促し、生産を維持することを目的として、和牛肉、ブリ及びマダイの学校給食への提供を支援している。和牛肉は、12月末現在で計画に対して8割以上、ブリ及びマダイは7割以上提供が済みであり、生徒に好評な上、需要の喚起につながっている。また、水産物については、県漁連による販促ポスター、PR動画等を活用した消費喚起を支援している。

エ) 酒米については、醸造用から加工用米や米粉用米など多様な用途への転換を促し、酒米在庫の解消に向けた支援を行っている。

オ) 県内食品事業者の輸出を維持・拡大するため、食品加工施設整備や衛生管理基準等の作成を支援している。

カ) 林業については、県産材の需要確保に向けて、住宅の動向などの木材需要への影響を注視し、引き続き、住宅などに県産材の利用を拡大する取組を進める。